

Pembrolizumab療法

（ ）コース目

患者ID： @PATIENTID

患者氏名： @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m ²)
\$HEIGHT01_Doc	\$WEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール： 1コース 21日。

目標コース： 最長 12か月間

使用基準： 適正使用ガイドに準じる。

開始前に甲状腺機能の確認のため、乳腺甲状腺外科へコンサルテーションすること。

※ **投与中**はVital signのチェック(Monitor装着を推奨)※ **Infusion reaction**に要注意

重度のInfusion reaction (アフラキシン様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等) が発現することがある。**2回目以降**の投与時に初めて発現することもある。

※ 間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状（息切れ、呼吸困難、咳嗽、疲労等）の確認及び胸部X線検査の実施等、観察を十分に行うこと。また、異常が認められた場合には必要に応じて本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

※ 肝機能障害に注意すること。

※ 甲状腺機能障害に注意すること。甲状腺機能障害があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に甲状腺機能検査（TSH、遊離T3、遊離T4等の測定）を実施すること。本剤投与中に甲状腺機能障害が認められた場合は、適切な処置を行うこと。

※ 肝炎ウイルス検査を行うこと。

《 使用薬剤 》

ペムブロリズマブ： ペムブロリズマブ（100mg/4mL）

投与量：

薬剤	標準投与量	計算値 (mg)	投与量 (mg)	投与日
ペムブロリズマブ	200mg/body	200.0		1

<< タイムスケジュール：開始時刻 >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

1月1日（火）

0時00分

① 生理食塩液 50mL

血管確保用で速度適宜に点滴静注

0時15分

② 生理食塩液 100mL + ペムブロリズマブ注 mg

0.0mL

0.2μm or 0.22μmのフィルター一体型輸液セットを使用する

30分で点滴静注

0時45分

③ 生理食塩液 50mL（①残薬の使用可）

フラッシュ

REFERENCE

Alexander M. M. Eggermont, M. D., Ph. D., Cristian U. Blank, M. D., Ph. D., Mario Mandala, M. D. et al., N Engl J Med 2018;378:1789-801.

Adjuvant Pembrolizumab versus Placebo in Resected Stage III Melanoma.

2019年9月度化学療法プロトコル審査委員会承認：2019年9月9日